

## 令和元年度第1回京丹波町地域包括ケア推進委員会 議事概要

日時：令和元年7月26日（金）13時30分～15時20分

場所：瑞徳保健福祉センター2階 集団指導室・健康学習室

出席者：片山委員、荒牧委員、岡本委員、寺谷委員、野間委員、津田委員、谷口委員、奥井委員、村上委員、藤田委員、大西委員、瀧村委員、岡田委員、堀委員、谷山委員、桐野委員、越川委員、塩貝委員

欠席者：大田委員

事務局：保健福祉課：大西課長、井上補佐、島田主任、西村係長、中川主査・岡本補佐

医療政策課：中川課長

（福）京丹波町社会福祉協議会 地域福祉課：岬課長（京丹波町生活支援コーディネーター）

### 1. 開会

### 2. 委嘱状の交付

町長より、代表委員へ交付

### 3. 町長あいさつ

出席及び委員就任等へのお礼。

本町においては、「第7期介護保険事業計画」等に基づき、本町の「地域包括ケアシステム」の深化・推進に取り組んでいる。今年度からは、「第8期介護保険事業計画」等の策定に向けた取組も進めていく必要がある。

第7期計画においては、介護人材確保対策事業を主要施策とし、介護サービスの充実を図るとともに、今年度からは、京丹波町社会福祉協議会に、全町域に活動いただく生活支援コーディネーターの配置も委託させていただいたところである。

このような取組により、高齢者の皆さんのニーズを的確に把握し、助け合いと活力ある「健康の里づくり」の実現に向け、取組を進めていきたい。皆様のご理解とご協力、ご支援をお願いしたい。

### 4. 自己紹介

各委員、事務局の順に自己紹介

## 5. 委員長、副委員長の選出

事務局：どのように決めさせていただいたらよいか。

奥井委員：事務局（案）はあるか。

事務局：前回に引き続き、委員長に片山委員様、副委員長は津田委員様にお願いしたい。

- ・事務局より承認について確認

→出席委員全員の承認により下記のとおり決定

委員長（ 片山俊明委員 ）

副委員長（ 津田勝二委員 ）

### <委員長、副委員長就任あいさつ>

#### ・委員長

委員長に再任頂いた。介護保険を含め福祉全般の中心的な計画について協議いただくことになる。とりわけ、費用が絡むことであり、より良いサービスを提供するにはそれだけ費用を要することとなる。施設等からも出席いただいていることから、本町に合った良い施策を進めていけるようご意見をいただきたい。

#### ・副委員長

引き続き、副委員長に就任させていただいた。委員長の足を引っ張らないように頑張らせていただきたい。皆さんから色々な意見を出していただき、自分自身の勉強にもさせていただきたい。

※次の公務のため、町長退席

6. 協議事項（片山委員長の進行により協議）

協 議 経 過	
発言者	発言内容
事務局	<p><b>協議事項（1）各委員会等の設置要綱について説明</b> <b>資料1</b></p> <p>※委員会等設置要綱を元に、協議いただきたい内容等について説明</p> <p>質問事項等 なし</p>
事務局	<p><b>協議事項（2）京丹波町介護保険事業等の現状について説明</b> <b>資料2</b></p> <p>※主に、平成30年度を基準とした京丹波町の人口、被保険者数、認定者数等の現状及び将来推計等について説明</p>
委員	<p>旧町ごとの高齢化率を把握されているか。町のホームページで確認したところ、和知地区では下がっていたと思われる。</p>
事務局	<p>本年7月1日現在の住民基本台帳を元にした高齢化率は、町全体で42.10%となっており、丹波地区・37.68%、瑞穂地区・44.70%、和知地区・49.19%である。先ほど言われたとおり、6月1日現在の和知地区の高齢化率は49.24%であり、若干下がっている。人口が、6月より7月の方が増えたため、高齢化率は減少したものと思われるが、65歳以上の人口も増えている状況である。丹波地区では、6月1日現在と7月1日現在は同じ、5月1日現在は37.74%と若干下がっている。瑞穂地区は4月以降上昇傾向にある。</p>
委員	<p>京丹波町の介護保険料は、京都府内でどれくらいに位置しているか。</p>
事務局	<p>第7期計画における保険料は、本町は京都府内で上位から9番目である。第6期では2番目であったが、基金を計画的に取り崩すこととし、若干引き下げを行った。第7期保険料の引き下げを行った市町は3市町あり、八幡市、南丹市、京丹波町である。増減無しが8市町。その他の市町は引き上げを行っており、年額で、一番高い引き上げ額は890円となっている。</p>
委員	<p>一番高い市町村は宮津市ではなかったか。</p>
事務局	<p>第7期は宮津市であり、第6期は南丹市が一番高かった。</p>

事務局	<p><b>協議事項（3）第7期介護保険事業計画等について説明</b> <b>資料3</b></p> <p>（参考資料：第2層生活支援コーディネーターが担う2つの支援）</p> <p>※第7期計画の基本目標及び主要施策等を説明</p> <p>※生活支援コーディネーターより、買い物支援や介護予防等に関する取組を報告</p>
事務局	<p>今年度から、町からの委託により、第1層の生活支援コーディネーターを担っている。第2層は中学校区に1名ずつ、合計3名を配置。主な取組では、買い物支援と介護予防をマッチングした取組として、和知地区で実施の通所型サービスA事業の「にこにこクラブ」の会場で、宅配便「わちスマイル便」に販売をしてもらう調整を行った。商品を、自分で見て、自分で選んでもらうという楽しみが介護予防にもつながっており、毎月1回、出張販売を実施していただいている。</p> <p>介護予防と居場所づくりでは、サロンを中心に健康体操を広め、体操をすることで集まりの場をつくるといった取組も進めている。新しい資源の開発等よりは、既に存在している地域資源の把握や側面的支援、活用を行っている。</p> <p>元々、社協が進めてきた地域づくりとしてのふれあいサロンや住民相互の助け合い、見守りネットワーク事業等を通じた安心して暮らせる地域づくりにも、住民の皆さんと一緒に取り組み、また、関係機関等とのネットワークの構築なども、生活支援コーディネーターの役割として進めている。</p>
委員	<p>資料3のP4の生活支援サービスの充実について、外出支援サービスについては、以前から運転手の確保が難しく、赤字覚悟で実施している。「充実」との記載があるが、どのような施策を検討されているのか。</p>
事務局	<p>現時点で、具体的なことは言えないが、今年度開催の福祉有償運送の協議会の中で検討していきたい。食の自立支援サービスについては、以前より配食の委託事業所が増えており、サービスの充実を図っている。</p>
委員	<p>10月から消費税が上がることにより、タクシー会社では値上げされると聞いている。そのことに伴い、外出支援の単価も検討すると担当者からは聞いている。以前から言っているが、更新時しか協議の場が無い。京丹波町の交通問題を話し合う場を設けて欲しい。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員	<p>外出支援サービスについては、運転手の確保が困難な中、乗り合いは出来ない</p>

	<p>等効率が悪い。利用料も安価であるが、一定、利用者負担が必要であり、行政からも意識改革に努めて欲しい。利用者によっては、帰る際に寄り道を依頼される方があり、サービス提供事業所からは断ることが出来ない。制度の緩和や利用者への啓蒙等についても協議いただくよう要望しておく。</p>
事務局	<p>遠方への送迎時の待機時間の問題についても以前から聞いており、一定見直しもさせていただきたいと考えている。乗り合いについては、料金設定が複雑化する等の課題があるが、利用料の見直しも含め、検討していきたい。</p>
委員	<p>第1層の生活支援コーディネーターは岬S C、第2層は中学校区に各1名との説明であったが、いずれも社会福祉協議会の職員が担われているのか。</p>
事務局	<p>第1層は地域包括支援センター職員も含め合計4名、第2層は社会福祉協議会の職員3名の配置となっている。</p>
委員	<p>自分自身が若い頃は、公民館を活用し、カラオケ等様々な取組を行ったが、参加されていた方が今は要介護の状態になられている。要介護状態にならないよう、今のうちに健康を長期に維持することが重要である。公民館を活用した取組等を検討して欲しい。</p>
事務局	<p>地域でのサロン活動や冬場における筋トレ教室の推進等に取り組んでいる。公民館活動では、旧町によって様々な取組がされているが、瑞穂地区では4つの公民館を中心に年間を通じた活動がされている。丹波地区・和知地区では振興会等を中心に活動されている。健康の維持については、健診を受診いただき、指導に基づく生活改善に是非取り組んでいただきたいと考えている。</p>
委員	<p>振興会の会長をしている。要介護者を増やさない取組が重要であり、そのためにも行政には私たちを活用して欲しい。公民館活動も衰退しており、他の地域にも振興会等をつくっていくことも必要ではないか。高齢化率が低い地域は危機感が無く、振興会が無い地域もある。丹波地区では、竹野活性化委員会のみである。介護保険料も高額であり、行政とタイアップすることで、要介護者を作らない社会を作っていくことが必要である。</p> <p>また、資料3のP5にある計画の評価については、実際の利用者に評価いただく仕組みが必要ではないか。</p>
委員	<p>竹野地区の9地区全部がサロンを実施している中で、待ち姿勢が多いと感じ</p>

	<p>る。高齢者自身、自分たちで何とかしようと考えている人が少ない。各地区 10 人～15、16 人の集まりがあるが、中心となる人が無い。竹野サロンは 9 地区全体を対象に毎週 1 回（午前 10 時～午後 3 時）集まり、場所とコーヒーのみを提供し、6 年目になった。当初は毎週 60 人位が参加。現在は、高齢化等により 40 人位に減少してはいるが、会話をするために来られている。何かをしてもらうのではなく、自分たちで目標を持たれている。元気で必ずサロンに行くことが目標になっており、これが自立支援に繋がっている。介護サービスの普及等により、誰かに何かをしてもらうことが、してもらって当たり前になりすぎているのではないか。高齢者の意識改革が必要である。自分たちで何とかしようという方法を、行政に相談する等の方向に切り替えていくことが重要であり、この方法を皆で検討することが必要である。</p>
委員	<p>個々の集落の取組は困難になっているため、近隣 5 集落で北部振興会を結成し 15 年目になった。この間、会長に 8 回就任し、合同サロン等に取り組んでいる。15 年が経ち、どうすれば高齢者の皆さんが良かったと思える人生になるかと考えるようになった。何とかしようと思う人と、それを支える女性たちの力があれば、何とか活動出来るのではないか。男性の出来ること、女性の出来ることを上手く生かせるようお願い出来る立場にあったため、活動を広めていった。区長は毎年交代があるため、役割が固定化された組織の方が活動しやすいのではないか。ただし、自治組織のため、高齢者に特化した活動のみではなく、若い人も含めた活動をしている。その中でも、高齢者を対象に年 3 回は活動しようと考えている。町内全体が頑張る方法としては、スタッフづくり、組織づくりが大切である。行政の力も借りてはどうか。1 集落では困難であっても、近隣集落で組織をつくってはどうか。まずは、昔の小学校単位で分けしてはどうか。和知地区であれば 6 つになる。そのように進めていくのがいいのではないか。</p>
委員	<p>資料 3 の P 4 の認知症施策に関して、クローバー・サービスで認知症カフェを実施している。週 1 回、15、16 人～30 人が来所される。認知症以外の方も来られる。地域のサロンの話題が出ていたが、カフェには、身近な地域では気楽に話が出来ないという方が来られている状況もある。色々な形態があってもいいのではないか。カフェには職員 2 名を配置。立ち上げ資金は町の助成があったが、運営資金は捻出出来ず、赤字覚悟で実施しているが、参加者はいきいきとされている。地域のサロンも大切であるが、クローバー・サービスのような 1 事業所が担っていくのも 1 つのあり方ではないかと考える。</p>
委員	<p>人材確保について、京都府では委員会を設置し、外国人材の受入の検討がされ</p>

事務局	<p>ており委員として参画している。(福)山彦会がEPA(経済連携協定)による受入を実施されていると思うが、町の方針はどうか、積極的な受入を考えておられるか? 本町規模の自治体の受入に当たっての課題等も教えていただきたい。</p> <p>現在、(福)山彦会で受入をされているのは8名であったか?</p>
委員	<p>12名である。</p>
事務局	<p>今、言われたように町内では(福)山彦会が積極的に受入をされているが、町としては、現時点では、積極的に受け入れていく等の検討を行ったことは無い。また、法人独自の取組に関して、意見等を述べることも無い状況にあるが、町においては、人材確保に係る福祉人材確保対策事業や介護福祉士育成修学資金の貸付事業も実施しているため、出来るだけ活用いただきたいと考えている。</p>
委員長	<p>色々な意見を出していただいた。計画であり、様々な意見を出していただきながら、より良い方向で進めていければと考える。</p>
事務局	<p><b>協議事項(4)その他</b></p> <p>※委員会議事録の町ホームページへの掲載について了承を依頼</p> <p>※今後のスケジュール(案)について説明 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span></p> <p>次回委員会開催日 令和元年11月25日(月)午後1時30分～</p>

## 7. 閉会(副委員長あいさつ)

資料2の町人口の推移では、2040年には、65歳以上の人口とそれ未満の人口がほぼ同率の構成になっている。65歳以上も若干減少するが、それ以上に65歳未満の生産年齢人口が減少し、ますます担い手が減少することが見込まれる。このため、町内で介護サービスを提供するには、町外から人材を集めてくる必要があるが、町外においても人材不足が言われているため、外国人材の受入も進めていかなければならない状況にあると思われる。

また、本町は高齢化の先進地であり、これまでの取組や国の考え方だけでは支えられない状況になっている。外出支援サービスにおいては、法令上の制約が厳しいが、移送支援について、先進地だからこそ考えていかなければならない時期にきているのではないか。こうだから出来ないではなく、住民の生活を支える視点で考えていく必要がある。

また、皆さんから、現状やご意見を聞かせていただきながら、一緒に検討していきたい。本日もありがとうございました。